

今年度第6号のメールマガジンをお届けします。
中学生の皆さんへ県立高等学校の魅力ある取組など有意義な情報をお伝えしますので、ご活用ください。
今回は7つの高校の情報を掲載しました。来月には、高校入試のための第1回志願者予備調査の結果が発表されます。皆さんが自分の進路を考えるための一助となれば幸いです。
公立高校ガイドブック、前期選抜入試に必要な志願理由書、平成26年度宮城県公立高等学校入学者選抜一覧などの情報は、上記の高校教育課のホームページを御覧ください。

〈それぞれの公立高校ホームページはこちらから〉

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/site/kyouiku/koukou.html>

■ もくじ ■

- 1 平成26年度入試に向けた公立高校情報の提供について
(1) 公立高校文化祭日程一覧
- 2 高校の特色ある取組（各高等学校からの情報）
(1) 仙台第二高等学校
〈第1回仙台第二高等学校アメリカ研修について〉
(2) 白石工業高等学校
〈工業の基礎を支える人材育成に向けて〉
- 3 学校紹介スペシャル
(1) 泉松陵高等学校
〈学習サポート体制 強力バックアップ！〉
- 4 コラム（各高等学校からの情報）
(1) 仙台東高等学校 教諭 千葉明彦
〈仙台東高校 海外研修～シンガポール研修に参加して～〉
(2) 宮城広瀬高等学校 コラム
〈創立30周年記念式典〉
(3) 水産高等学校 情報科学科 教諭 若松英治
〈“特化”すること〉
- 5 お知らせ（各高等学校からの情報）
(1) 村田高等学校
〈平成25年度 村高祭「輝き～332 Stars～」のご案内〉
- 6 編集後記

■ 1 平成26年度入試に向けた公立高校情報の提供について ■

メールマガジン以外にも、公立高校のさまざまな情報を提供していきます。

□ (1) 公立高校文化祭日程一覧

今年もすでに公立高校の半数以上の学校で文化祭が開催されましたが10月後半に開催される学校もありますので、是非足を運んでみてください。

生徒が中心となって、文化部のステージ発表や展示発表、模擬店の開催など、各学校とも趣向を凝らしたイベントが行われます。普段の学習生活だけではない、校内での活動を知る絶好の機会です。

高校教育課のホームページに、開催日時の一覧を掲載しています。

→ <<わしくはこちら>>

<http://www.pref.miyagi.jp/site/sub-jigyuu/gak-schoolinfo-inndex.html>

■ 2 高校の特色ある取組 ■

宮城県の高등학교の特色ある取組についての情報を紹介するコーナーです。

□ (1) 仙台第二高等学校

└ <第1回仙台第二高等学校アメリカ研修について>

希望した2年生24名が参加しました。この研修は、本校の学校経営方針の中・長期目標の一つである『「本物」に触れる機会の提供、豊かな感性と情操の涵養』を目指した二高独自の国際交流事業です。7/21～7/30の短い期間でしたが、米国の大学キャンパスを舞台に世界各国から集まった学生たちとの密度の濃い異文化交流は、何物にも替え難い貴重な体験となったようです。なお、出発前の事前オリエンテーション（英語の試験を含む）と帰国後のミーティングや報告書の作成などの時間を充実させることで、より実りのある米国研修となりました。

研修の目的・場所・特色等については、メールマガジンで7月1日に配信いたしました。また、詳細は本校ホームページをご覧ください。なお、8月29日に研修報告会を開き、参加できなかった生徒も含めて大変有意義な時間を学年全体で共有することができました。第1回アメリカ研修は、多くの二高生にとって世界を身近に感じる一歩となったようです。

→ <ホームページはこちら> <http://www.sen2-h.myswan.ne.jp/>

□ (2) 白石工業高等学校

└ <工業の基礎を支える人材育成に向けて>

工業化学科では工業を基礎から支える「化学工業」の分野において専門的な授業を行っています。実技を伴う“実習”型授業が特色です。実習では例えば、身のまわりの物質などの化学分析を行い環境について考えたり、プラントと呼ばれるミニ工場でセッケンを製造したり、工業には欠かせない熱、液体の流れ、電気、3次元CADなどについて学んでいます。さらに、バイオテクノロジーの実習もあり、エンジンの組織培養を行うなど幅広い学習ができます。

加えて、学習内容のより一層の充実を目指して外部講師による分析講習会を開催したり、危険物取扱者、有機溶剤作業主任者技能講習等の資格取得のための支援・環境整備に力を入れております。将来の進路実現に向けては、生徒の皆さんが社会の一員としての勤労観・職業観を身に付け、積極的且つ意欲的に取り組むことができるよう、インターンシップ（就業体験）を地域の企業の皆様より協力をいただくことで2年生全員を対象に実施しております。

このように社会で通用する基礎力を習得した人材の育成に多方面から力を注いでいます。

■ 3 学校紹介スペシャル ■

高等学校の特色ある取組を含めて学校の取組全体をくわしく紹介するスペシャルコーナーです。

□ (1) 泉松陵高等学校
| <学習サポート体制 強力バックアップ!>

泉松陵高校はきめ細かな指導で強力に学習をバックアップします。その学習サポートについていくつか紹介します。

- 『週末課題』
毎週末の家庭学習をより効果的にできるように支援します。
- 『PTテスト(マーク式定着度テスト)』
月に一度、国数英を中心にした‘Power-up Time Test’を行います。授業と週末課題の内容をきちんと理解して、身に付いているかチェックし、学力のPower-upを図ります。
- 『小論文指導』
総合学習の時間を利用し、1年生のうちから小論文の勉強をします。
- 『学習時間チェックシート』
「学習の記録」を毎日確認し、継続的な学習の習慣づけをします。
- 『松陵チャート』
勉強の方法や中学校との違いを明確にし、1年間の学習計画や試験の年間出題範囲を年度はじめに配布します。
- 『進路別クラス編成』
「国立文系」、「私立文系」、「国立理系」、「私立理系」、「看護医療系」の5つのコース選択に基づいてクラス編成を行い、進路希望達成を目指します。

以上、本校の学習についての主な特色について述べました。このほかにも紹介したいことは山ほどありますが、詳しくはホームページをご覧ください。将来の目標を明確に持ち“自己実現の意欲”のある人にとって、充実感と達成感を味わえる学校です。希望を持って意欲的にチャレンジしたい中学生の皆さんの入学を待っています。

→ <ホームページはこちら> <http://www.shoryo.myswan.ne.jp/>

■ 4 コラム ■

高等学校の校長先生、一般の先生、生徒代表などが、「我が校」に対する想い、最近の話題などについて語ります。その高校の新しい魅力が発見できるコーナーです。

□ (1) 仙台東高等学校 教諭 千葉明彦
| <仙台東高校 海外研修～シンガポール研修に参加して～>

平成25年度から希望者30名を対象にシンガポール研修がスタートしました。8月3日から7日までの4泊5日の日程でシンガポールとそのお隣の国マレーシアを訪問し、国際理解・異文化理解・英語研修をキーワードに様々な活動をしました。例えば、シンガポール大学の学生達に案内していただき、班別に市内各所をまわり、英語でコミュニケーションを取りながらシンガポールならではの多国籍文化を肌で感じる貴重な経験をしました。また、国境を越えマレーシアに移動し、シナラン村を訪問しました。椰子の木やゴムの木の農園を見学したほか、家庭を訪問し民族衣装を着て、伝統的な遊びを体験したり、マレー料理を楽しんだりしました。シンガポール市内の学校訪問では、地元の生徒たちとデザインの授業を受け、内容についてディスカッションするなどして交流を深めました。研修に参加した生徒たちは異文化にふれ、目を輝かせながら「自分が学んできた英語が何とか通じてうれしかった。」「様々な文化を体験して自分の視野が広がったような気がした。」「自分の気持ちをもっと伝えられるように英語を勉強していきたい。」「自分たちとは異なった文化を尊重できるようになった。」「これからも国際交流をしていきたい。」などの感想を寄せてくれました。それぞれの生徒たちにとって、有意義な体験になったようです。

以上のように、今年度からスタートしたシンガポール研修は短期間ながら密度の濃い充実した研修になりました。今後この研修を継続し、さらに発展させていきたいと思えます。

→<ホームページはこちら><http://higasi-h.myswan.ne.jp/>

□ (2) 宮城広瀬高等学校 コラム
| < 創立30周年記念式典 >

来たる10月30日、東京エレクトロンホール宮城において「創立30周年記念式典」を行います。「記念式典」に続く「記念公演」では、本校卒業生が立ち上げた「白A」というグループがパフォーマンスを披露する予定です。ご存じの方も多いと思いますが、海外での評価が高く、今年は世界を舞台に活躍中です。現在はロンドンでロングラン公演を行っており、10月29日に日本に戻り、10月30日の公演が終わったらロンドンへとんぼがえり、という忙しさです。

本校は、昭和58年4月に誕生しました。10周年記念誌によると「旧宮城町に普通科高校設立をという地域の方々の熱望に応じて」創立されたとあります。

現在の在校生の出身中の内訳は、広瀬中が130名、大沢中が56名、折立中が37名、広陵中が13名と、地域の中学の出身者が約3割を占めています。

今、広瀬高校が、「地域の方々の熱望に応じて」いるのかどうか。また今後も「応えて」いけるのかどうか。30周年という節目の年、生徒、職員が一丸となって試行錯誤の毎日を送っています。はたして、「白A」に続くようなユニークな卒業生は生まれるのでしょうか。

□ (3) 水産高等学校 情報科学科 教諭 若松英治
| < “特化” すること >

特化：特定の部分に重点をおき、内容を限定する（絞り込む）ことで専門化すること。

私は先日、ある目的のために宮城県から4時間かけて自動車で山形県の日本海側に位置する鶴岡市に行ってきました。なぜ、わざわざ山形の、しかも海沿いまで足を伸ばしたかという、それは、“世界一”を見たかったからです。

山形にある世界一！とは、そう、加茂水族館です。水族館？じゃあ、松島へ行けばいいじゃないかと思うかもしれませんが、そうはいきません。何しろそこはクラゲの展示種類数が世界一を誇る水族館で、「たくさんのクラゲを見たい！」という確固とした目的意識を持つ人こそ集まるところだからです。

加茂水族館は、1986年（今から約30年前）に、入館者数がそれまでの過去最高の21万人を超えたときをピークに、それ以降少しずつ低迷し、平成に入ってから年間10万人程度になりました。最低の9万人となった1997年（平成9年）、サンゴの水槽に偶然クラゲが発生したことからクラゲの展示が始まり、2000年にはクラゲ展示室を設置し、12種類のクラゲを展示、日本一となったのを皮切りに、2005年には21種類に増え、世界一となりました。さらに、2012年にはギネスにも認定され、来館者も最低時の3倍である27万人を超えました。クラゲ展示のいきさつはただの偶然かもしれませんが、その偶然から活路を見出すように発想を転換させ、「クラゲ展示で世界一になろう！」と意気込み、ひたすらクラゲ展示に特化していった心意気に敬意を表したいと思ひ見学に向かったのです。ですから私はこの水族館が“クラゲに特化しているから行った”のであって、他と大差ない水族館ならわざわざ出向くことはしなかったでしょう。“特化すること”とは、“賭け”である部分も否定できません。しかし、特化した部分を欲している人にとってはとても価値のあるもので、その特殊性は他には変えられるものではないため大いに重宝されるのです。

さて、我が宮城県水産高校ですが、学ぶことはもちろん“水産に特化”されています。

水産高校は、全国に43校しかありません。日本の全高校生のうち水産高校生の比率は、なんと0.3%にしかありません。ですから水産高校で学ぶということは、他の高校生とは大きく異なり、専門家として活躍できるチャンスが大いにあります！水産高校で、自分自身を特化しませんか！？

<自分を特化したいなら11月のオープンキャンパスへGo！>

詳しくはコチラをクリック！→<http://miyagisuisan.myswan.ne.jp/>>

■ 5 お知らせ ■

□ (1) 村田高等学校
| <平成25年度 村高祭「輝き～332 Stars～」のご案内>

村田高校では、「輝き～332 Stars～」のテーマで下記の日程で本校の文化祭である「村高祭」の一般公開を行います。生徒達が趣向を凝らした展示・発表・販売を行いますので、ご来場を心よりお待ちしております。更に詳しい内容については本校のホームページ《<http://murata-h.myswan.ne.jp/>》に掲載する予定です。

日程 11月9日(土) (9:30～13:20)

会場 宮城県村田高等学校 [柴田郡村田町大字村田字金谷1]
《JR「大河原駅」から宮城交通バス「村田南町」下車 徒歩5分》

■ 6 編集後記 ■

平成25年度も振り返りが過ぎ、残り半分となりました。
ほとんどの高校では9月末に前期末考査が終了し、10月から後期が始まりました。高校生の就職希望者は9月中旬から就職試験が始まり、進学希望者もこれから推薦入試などが始まる時期です。
中学校の受験生の皆さんも来春、希望の進路を達成していることを願っております。
これからも各高校の様々な情報をできる限りお伝えしたいと考えておりますので、「高校教育課 情報メール」をよろしく願います!

◇◇高校教育課 情報メール(メールマガジン)◇◇
○発行: 宮城県教育庁高校教育課
〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
TEL: 022-211-3626/FAX: 022-211-3696
